

「横須賀高等学校の存続を求める意見書」の提出について

掛川市議会は、地方自治法第99条の規定により、「静岡県知事」「静岡県教育委員会教育長」に対し、「横須賀高等学校の存続を求める意見書」を裏面のとおり提出する。

令和3年12月23日提出

提出者

掛川市議会議員

松 本 均
石 川 紀 子
大 井 正
富 田 ま ゆ み
嶺 岡 慎 悟
寺 田 幸 弘
山 本 行 男

安 田 彰
鷺 山 記 世
山 田 浩 司
勝 川 志 保 子
藤 澤 恭 子
山 本 裕 三
草 賀 章 吉

橋 本 勝 弘
高 橋 篤 仁
藤 原 正 光
松 浦 昌 巳
鈴 木 久 裕
窪 野 愛 子
二 村 禮 一

横須賀高等学校の存続を求める意見書

平成29年11月に第3次県立高等学校再編計画として地元横須賀高等学校と池新田高等学校の新構想高等学校への改編計画が静岡県教育委員会より発表された。掛川市議会はこの計画により市内横須賀高等学校がなくなることを深く憂慮し、市、地域が一体となり「横須賀高校を守る会」、令和2年9月には、これを充実発展させた「南遠地域教育環境整備推進協議会」発足により、横須賀高等学校の存続を強く要望してきたところである。新構想高等学校への改編は令和8年度となっており、本年度は県教育委員会において新構想高等学校の候補地が決定される重大な年であると認識している。

横須賀高等学校は、昭和25年開校の長い歴史を持ち、地域文化の中心であり、生徒は年間を通してボランティア活動等を積極的に行い、更に地域住民とともに文化伝承の一翼を担っている。地域との結びつきも深いこの歴史ある高等学校を、将来に渡って支え、育んでいくことが地域の人々の励みであり願いでもあることはいままでもない。卒業生の約6割が地元地域の企業等に就職するなど、掛川市にとって、なくてはならない高等学校である。また同校の生徒は、掛川南部、浅羽、福田、竜洋地区の出身者が全体の8割を占めており、掛川市のみならず南遠地域全体にとっても重要な役割を果たしている。

この間、川勝平太県知事からは、地元の望まない統廃合は見直しも含めて再検討をする旨の発言もあった。また、静岡県教育委員会からは、地元の理解なしには再編計画の候補地の決定を行わないとの発言もあった。

よって、静岡県及び同教育委員会においては、コロナ禍を経て、第3次県立高等学校再編計画発表時と社会情勢の変化を鑑み、存続を願う地元の意を汲んで、再編計画の一部を修正し、横須賀高等学校を存続するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年12月23日

静岡県掛川市議会